

地域連携ネットワークから 地域統合ネットワークへ

国際医療福祉大学大学院

武藤正樹

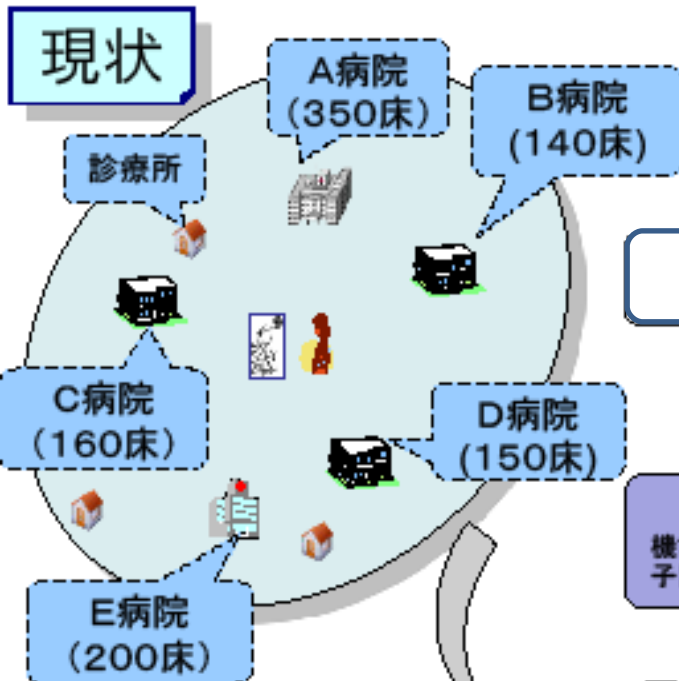
(病院再生研究会)

連携ネットワークと統合ネットワーク

- 地域連携ネットワーク(現状)
 - 経営主体の異なる医療機関・介護福祉施設の連携
 - 地域医療計画における連携推進
 - 疾病別・事業別ネットワーク
 - 地域連携クリティカルパス、連携コーディネーター
- 地域統合ネットワーク(今後)
 - 保険者、物流、医療人材、情報の統合ネットワークを形成
 - 50km~100Km医療圏に急性期病院、回復期リハ、慢性期病院、診療所、介護施設、在宅医療・介護
 - 売り上げ規模600億~1000億円の統合ネットワーク
 - 医療人材養成機関(大学)を併設あるいは連携

地域連携ネットワークから地域統合ネットワークへ

現状



課題

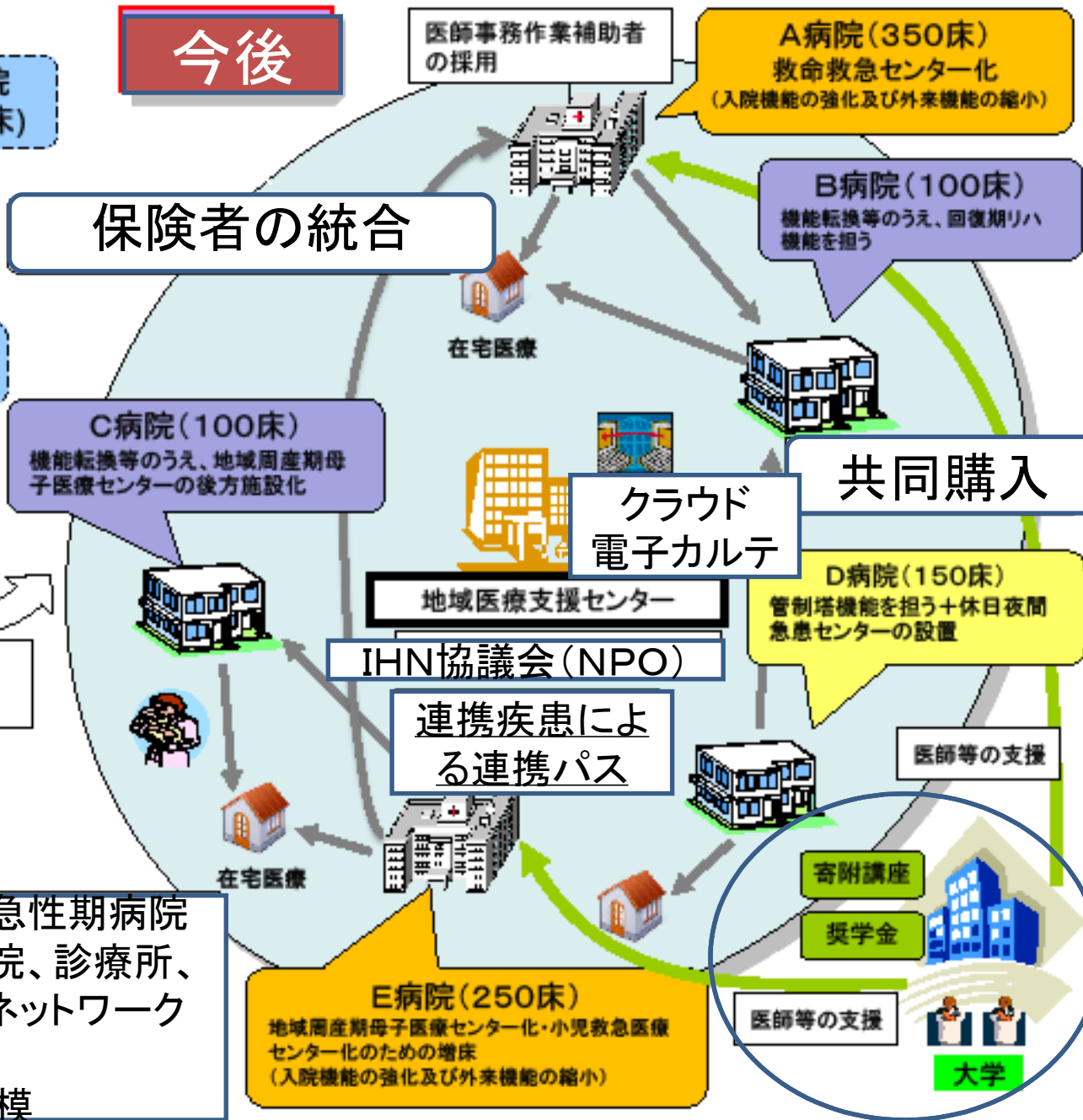
- 地域の医療資源が不足している
- 施設間で機能分化と連携ができていない

方策

半径50Km~100Km 圏内に急性期病院、回復期リハ病院、慢性期病院、診療所、介護福祉施設+大学の統合ネットワーク (IHN) を形成、
売り上げ600億~1000億円規模

今後

保険者の統合



連携疾患による連携パスとは？

連携疾患の例

連携疾患に求められる要件は？

- 要件① 慢性疾患で患者数が多く、専門医だけではとても診きれない疾病
- 要件② 診療ガイドラインが明確で、地域連携パスがある
- 要件③ 専門医とかかりつけ医との役割分担が明確で、二人主治医が成り立つ
- 要件④ 専門医に紹介すべき基準が明確、緊急時や合併症発生時の専門医の受け入れが可能など

病院側のポイント

- ポイント① 急性増悪、合併症発生時、薬物療法副作用時などの受け入れ体制
- ポイント② 地域連携パスの構築による専門医とかかりつけ医の情報共有
- ポイント③ 症例検討会、勉強会

診療所医師の本音

日常診療で手一杯
専門外の診療に手を出すのはリスクが多い
高い治療薬に手を出したくない
手間のかかる患者は困る

連携疾患
脳梗塞、がん(胃がん、大腸がん、乳がん、肺がん、肝がんなど)、糖尿病、肝炎、認知症、糖尿病慢性腎臓病(CKD)、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、成人喘息、心房細動(AF)、慢性心不全骨粗しょう症、関節リュウマチ、変形性関節症、逆流性食道炎、軽症の特発性造血疾患など

在宅医療のICT活用

スマートフォンやi-PADを利用した地域カルテ

- 用賀三丁目薬局と桜新町アーバンクリニック
– スマートフォンを利用した在宅医療の現場を9月1日に見学



保険薬局ファークスの斎藤くん



桜新町アーバンクリニックの
遠矢先生

地域連携ネットワークから ヒト・カネ・モノ・情報の 統合ネットワークへ

日本版IHN

(Integrated Health Care Network)



JA長野厚生連 佐久総合病院に12月、院生の修学旅行に行きます